

# 幼児音楽教育におけるピアノ指導法の研究 「ブルグミュラー 25の練習曲」から

池田 敦子 田中 幸子

Research of Piano Teaching Method in Childhood Music Education  
From “A Performance of F.Burgmuller’s 25 Etudes”

Atsuko IKEDA Sachiko TANAKA

キーワード：ブルグミュラー、標題音楽、ピアノ学習、練習曲

## 1、はじめに

保育士、幼稚園、小学校、中学校音楽教員の採用試験は「弾き歌い」を含めたピアノ実技が課題として指定される事が多い。初等科音楽教育法には、音楽の目標と理念は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基本的な能力を培い、豊かな情操を養う。」と書かれている。学生は生徒に音楽活動を通して、さらに聴きたい・弾きたい・歌いたい、など音楽の楽しみを感じさせ、音楽の素晴しさや美しさを感じ取り、それを表現出来るような演奏能力を児童・生徒に指導しなければならない。

筆者は宮崎学園短期大学でピアノ指導を実施し、音楽科の教科では「伴奏法」、初等教育科の教科では「音楽Ⅰ・Ⅱ」、保育科の教科では「器楽Ⅰ・Ⅱ」、を担当している。音楽教育において即戦力として働ける保育士、幼稚園、小学校、中学校音楽教員を目指し指導をする中で、コースにより演奏力が違うのは当然とおもわれたが、どの学科も楽曲の構成面や、リズム感、和声感、メロディー感、フレーズ感などの表現の技能面に弱さを感じた。学生自身が、音楽の良さ、楽しさを感じ、それがわかる感性、それを表現できる技能が足りないのである。

そこで5年程前から音楽科「伴奏法」、初等教育科「音楽Ⅰ・Ⅱ」、保育科「器楽Ⅰ・Ⅱ」の授業時間の内少しを使い、標題音楽のブルグミュラー作曲「25の練習曲」を教材として、演奏力、音楽力を培う試みを実施した。

本論は「ブルグミュラー 25の練習曲」から数曲を選び、指導の立場から有効性を考察したものである。

## 2、ブルグミュラーについて

ヨハン・フリードリヒ・フランツ・ブルグミュラー〔Johann Friedrich Franz Burgmuller, 1806-1874 12月4日〕は南ドイツのレーゲンスブルグで誕生。

父はヨハン・アウグスト・フランツ・ブルグミュラー〔Johann August Franz Burgmuller 1766-1824〕で若いころからワイマールの劇場などの音楽監督を歴任し、デュッセルドルフでは指揮者として働きライン音楽祭を創設、1821年に初代デュッセルドルフ市音楽監督に就任した音楽家である。弟のアウグス・ヨーゼフ・ノベルト・ブルグミュラー〔August Josef Norbe〕とフリードリヒはデュッセルドルフで両親から音楽の指導を受

けながら育った。フリードリヒはチェロとピアノの演奏、ノベルトは作曲とピアノの才能を開花させた。

実力派の父はフリードリヒが17歳の時に他界。音楽家としての道を地道に歩み始めた。1834年28歳の時にパリに移り住みピアノ教師をしながら、600曲近くのピアノ小品やバレエ音楽「パリ」、舞台用オーケストラ作品、歌曲なども書いた。

エチュードは「25の練習曲」op100、「12の練習曲」op105、「18の練習曲」op109の3冊を残している。その中でも「25の練習曲」は最も有名な曲である。

### 3、「25の練習曲」授業内容

筆者がまず演奏し、以下の事を取り入れイメージなど感覚的なこと、演奏テクニック、音楽の理解を深めた。さらに曲の望ましい演奏について明確な表現と、それを習得するための練習についての知識、研究姿勢を持たせ、音楽力と演奏力の上達につなげた。

- ・演奏がどんなふうに聴こえたか感じ取る。
- ・標題からのイメージを考える。
- ・同じ標題の曲を調べ、鑑賞する。
- ・音楽用語を理解し、どの様に演奏するか考える。
- ・曲の構成を読み取り、和声感、リズム感、旋律感なども考える。
- ・標題からのイメージに合った演奏をしているか確かめながら演奏する。
- ・メロディーと伴奏に分けてバランスを考えながら演奏する。
- ・曲の分析をする。

#### ○「25の練習曲」第3番「牧歌」「パストラール」

◎演奏がどんな風に聴こえたかは、ほとんどの学生が「穏やか。広々とした感じ。」等であった。

◎牧歌とは羊飼いに代表される牧童の歌や羊飼いを題材とする田園的な風景を描写しているのだから、標題からのイメージは広い草原に、羊や馬を穏やかに楽しく世話をしている牧童が歌っている様子である。

◎同じ標題では、アレクシス・エマニュエル・シャブリエ〔1841-1894パリ〕作曲の「牧歌」とフランツ・リスト〔1811-1886バイロイト〕作曲の「牧歌」を取り上げた。シャブリエの「10の絵画ふう小品」第6番「牧歌」はオーケストラにも編曲されとても評価されている。この曲ものどかで魅力的な曲である。筆者が演奏し標題音楽を感じ取ってもらったスイスの田園的な風景を感じさせる美しい曲のリストの「巡礼の年第1年スイス」から第7曲「牧歌」も鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- ・ Andantino [アンダンティーノ] ほどよくゆっくりよりやや速めに
- ・ dolce cantabile [ドルチェカンタービレ] 愛らしく、歌うように
- ・ cresc. [クレッシェンド] だんだん強く
- ・ tenuto [テヌート] 音符の示す長さいっぱいのにばす
- ・ diminuendo [デイミヌエンド] だんだん弱く
- ・ dime poco rall [デイミヌエンド・エ・ポコ・ラレンタンド] だんだん弱く、少しだんだんゆるやかに

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「前奏ABA´コーダ」の3部形式 8分の6拍子 ト長調

• 前奏〔1小節目～2小節目〕

2小節の短い右手だけの前奏は、やわらかく歌う様に演奏。レガートと示してあるがここはモルトレガートの前の音と次の音が少し重なって弾く位の感じで奏し、自分の音が滑らかに歌えているかどうかきちんと確かめながら奏す。

• A〔3小節目～10小節目〕

3小節目メロディーラインの前打音は、指や手の力をぬいて音が硬くならない様レガートに歌って弾く。和音伴奏はト長調の主音の保続音をメロディーとのバランスを考えてピアノシモで奏すが音が浮かない様に注意する。

5小節目の装飾音はテンポが変わらない様に装飾音は前に出し、やわらかく、美しく奏す。

9小節目から大きさを出していく。伴奏も属調のニ長調に変わっている。

10小節目の4拍目は、2オクターブの開きがあるので音を見てきちんと奏す。

その後にある8分休符も音楽の流れの一つなので大切に扱う。

• B〔11小節目～18小節目〕

メロディーはやや大きさをもって15小節目のCisに向かってクレッシェンドをしていく。15小節目は表情豊かに奏す。伴奏の和音はメロディーとのバランスや響きを確かめながら奏す。内声伴奏Dの保続音は、左手の1の指が硬くならないように気をつけリズム、テンポを正確に取り、柔らかく、やさしい音で奏す。

15小節目の左手Bの連打音、16小節目の右手Esの連打音はスタカート、レガート、指使い、音量など注意し気持ちをこめていねいに奏す。それから美しく歌いディミヌエンドしていく。18小節目の伴奏Dの音のタイ、8分休符を意識する。

• A´〔19小節目～26小節目の1拍目〕

19小節目から静かで甘くやわらかいテーマに戻る。

22小節目からだんだんメロディーは上行、伴奏は下行しながらクレッシェンドで盛り上がり、25小節目のフレーズの終わりはディミヌエンドで丁寧に歌う。

• コーダ〔26小節目の2拍～最後〕

だんだん弱く、少しゆるやかでやわらかなスタカート、ピアノシモで美しく消えるような音で曲を閉じるため、鍵盤からの手のはなし方、ペタルの足のあげ方にも注意して意識的にゆっくりする。

◎「伴奏法」「音楽Ⅰ、Ⅱ」「器楽Ⅰ、Ⅱ」の授業では自分のイメージに合った演奏を発表し、「伴奏法」の授業ではメロディーと伴奏にわけ、連弾としても勉強し伴奏の指導も行った。

◎曲の分析を行った。〔1〕

### ○第15番「バラード」

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「はじめのハ短調の和音から神秘的に曲に入っていく感じが魅力的だ」等であった。

◎バラードとは19世紀の自由な形式のピアノの小品で、ロマン的な物語をあつかい、

それに音楽を付けキャラクター・ピースのひとつとしてこの名称を使っている。又この曲はシューベルトの「魔王」のイメージをダブらせて解釈する事もある。標題からのイメージは、神秘的でドラマチックな物語である。

- ◎同じ標題では、フレデリック・フランソワ・ショパン〔1810-1849パリ〕作曲の「バラード第1番 作品23 ト短調」とフランツ・リスト作曲の「バラード2番 ロ短調」を取り上げた。

ショパンは作品の中で代表的な4曲のバラードを書いている。筆者がバラードの1番を演奏し標題音楽を感じ取ってもらった。規模も大きく壮大なリストのバラードも、鑑賞する様指導した。

- ◎音楽用語を理解する。

- Allegro con brio〔アレグロコンブリオ〕元気に速く。
- misterioso〔ミステリオソ〕神秘的に。
- animato〔アニマート〕活気をつけて
- simile〔シミレ〕同様に。

- ◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「前奏ABAコーダ」の3部形式 8分の3拍子 ハ短調

- 前奏〔1小節目～2小節目〕

ハ短調の主和音のみの前奏。1, 3, 5の指に神経を使い音の粒をそろえる。弱く軽く、響きをよく聴きながら静かに、スタカートで神秘的に奏す。

- A〔3小節目～30小節目〕

3小節目からの左手メロディーはレガートで奏し、主和音の後のAの音で表情を強くもつ。

19小節目からクレッシェンドで音楽が流れ、24小節目からのハ短調主和音のアルペジオで下降する音は、明瞭でしっかり奏す。28小節目～30小節の和音はフォルテで鋭くアクセントをつけ響かせる。8分休符はフェルマータに気をつける。

- B〔31小節目～56小節目〕

重苦しいハ短調から、甘く明るいハ長調になる。メロディーは右手になり、美しくドルチェでレガートに奏し、左手の伴奏はさらにやわらかな音量で奏す。

45、46小節目は下降するスタカートが速くならない様気をつけ、音楽が活気もって流れる。53小節目～56小節目はオクターブのユニゾンを意識し、単調ではあるが、力強い効果をもって奏す。

- A〔57小節目～86小節目〕

57小節目からふたたび重苦しい第1主題の場面が展開される。

- コーダ〔87小節目～最後〕

インパクトのあるユニゾンがフォルテで入る。縦の線が決してずれることなく力強く明瞭に奏す。92小節目からの終結部は弱くdimin.なのに最後の音はスフォルツァンドのハ短調の主和音で暗く謎めいたものを感じさせる。

- ◎「伴奏法」「音楽Ⅰ、Ⅱ」授業では自分のイメージに合った演奏をし、「伴奏法」の授業ではメロディーと伴奏にわけ連弾としても勉強し、伴奏の指導も行った。

◎曲の分析を行った。〔2〕

### ○第20番「タランテラ」

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「フォルテで始まるユニゾンの序奏から情熱を感じる」等であった。

◎タランテラとは、南イタリアの8分の3拍子や8分の6拍子の舞曲である。

毒蜘蛛のタラントウラにかまれた時にこの踊りで治るといふ伝説がある。標題からはくるくる狂ったように速く踊るイメージが思いうかぶ。

◎同じ標題では、フレデリック・フランソワ・ショパン作曲の「タランテラ作品43 変イ長調」とフランツ・リスト作曲の「巡礼の年」第2年第3曲「タランテラ ト短調」を取り上げた。ショパンの「タランテラ」はロッシーニの歌曲「踊り」に基づいた曲である。4小節の序奏に8小節単位のフレーズがいろいろ変化されながら進む、楽しい曲である。筆者が演奏し標題音楽を感じてもらった。

リストの「巡礼の年」第2年は「第1曲ゴンドラをこぐ女」「第2曲カンツォーネ」「第3曲タランテラ」であるが「タランテラ」は単独で演奏される事が多い。

スケール大きな華やかな曲である。鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- Allegro vivo [アレグロ ヴィーヴォ] 速く、快活に
- eggiero [レグジェーロ] 軽く
- dimine poco riten [ディミヌエンド・エ・ポーコ・リテヌート]  
だんだん弱くだんだんおそく

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は〔前奏ABA'CA'コーダ〕の小ロンド形式 8分の6拍子 ニ短調

• 前奏〔1小節目～8小節5拍目〕

1～4小節目のユニゾンはフォルテ、クレッシェンド、スフォルツァンド、ディミヌエンドをインパクトをもって2回くりかえし、6～8小節目の重音を情熱的に奏す。休符のフェルマターを大切にし、音楽の流れに緊張感を持って奏す。

• A〔8小節6拍目～16小節5拍目〕

アフタクトを意識する。4小節を1つのフレーズとして奏す。

伴奏の付点4分音符は、正しく拍子を取り、動きの早い右のメロディーを支える。13小節目からクレッシェンドして盛り上がりを見せる。メロディーのリズムも大切に奏す。

• B〔16小節6拍目～24小節5拍目〕

軽快なリズムのメロディーを左手の付点4分音符で静かに支え、21小節目からの分散和音ではクレッシェンドで大きさを出していく。

• A'〔24小節6拍目～32小節5拍目〕

フォルテで情熱的に演奏、29～32小節目までの分散和音の伴奏とメロディーのリズムを明瞭に奏す。

• C〔33小節目～48小節目〕

ニ長調になり気分が明るく変わる。1フレーズずつ軽く華やかな雰囲気奏す。

40小節目の装飾音を大切に、41小節目からの前打音は、拍の前に弾き指の力をぬいて硬くならないよう丁寧に奏す。

- コーダ〔56小節目～66小節目〕

コーダの始まりの56～60小節目はユニゾンではないが前奏が浮かび上がりインパクトがある。62小節目からは、だんだん弱く、少し遅くだが、最後の2小節目は正しいテンポでいきなりフォルテで強烈に終わる。

◎「伴奏法」「器楽Ⅰ、Ⅱ」の授業では自分のイメージに合った演奏を発表し、「伴奏法」の授業ではメロディーと伴奏にわけ連弾としても勉強し、伴奏の指導も行った。

◎曲の分析を行った。〔3〕

### ○第22番「舟歌」「バルカローレ」

◎演奏がどの様に聴こえたかは、「穏やかな波の上に自分が居る感じがする」等であった。

◎「バルカローレ」はもともと「ゴンドラの歌」とも言う。通常8分の6拍子で、まれに8分の12拍子などもあり、比較的ゆっくりした曲である。標題からは、静かに揺れ動く波の上でゴンドラをこぐ船頭さんが歌っている様子である。

◎同じ標題では、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー〔1840-1893ペテルブルク〕作曲の「船歌」、フレデリック・フランソワ・ショパン作曲の「バルカローレ 作品60嬰へ長調」を取り上げた。チャイコフスキー作曲の「舟歌」はピアノ曲集「四季作品37」の第6曲〔6月〕である。美しく叙情的なメロディーは心に残る曲である。筆者が演奏し標題音楽を感じ取ってもらった。

ショパン作曲の「バルカローレ 作品60 嬰へ長調」は、ピアノ独奏曲として彼の大作である。8分の12拍子で、舟歌の感じを雄大で美しく仕上げている。鑑賞する様指導した。

◎音楽用語を理解する。

- Andantino quasi Allegretto〔アンダンティーノ・クアジ・アレグレット〕  
アンダンテより速く おおよそアレグレットのように
- *dim. e riten.*〔デイミヌエンド・エ・リテヌート〕だんだん弱く、遅く
- *in tempo*〔イン・テンポ〕正確な速さで
- *lusingando*〔ルジングアンド〕愛らしく、やさしく
- *perdendosi*〔ペルデンドシ〕だんだんゆっくり、だんだん消えるように

◎曲の構成を頭に入れ流れを考える。

形式は「前奏ABAコーダ」の3部形式 8分の6拍子 変イ長調

- 前奏〔1小節目～12小節目〕

12小節目の長い前奏である。4小節目の3つのフレーズは、美しい波を思い浮かべて奏す。1～2小節目、5～6小節目のユニゾンはピアノシモでささやくように。3～4小節目、7～8小節目のクレッシェンドでの和音進行は指使いに注意し、手首を柔らかく腕の動きを使ってレガートに奏します。和音は音がずれたりしないよう注意深く聴きながら奏す。8小節目の左の前打音は拍の前に奏すが、音が残るようにペタルの踏み方に気をつける。

- A〔13小節目～20小節目〕



左の波のリズムは大切にきざむ。右のメロディーは歌うように奏す。2つのフレーズは変イ長調からハ短調に和音進行が変わっているのを意識して、ニュアンスを変えて奏す。

• B [21小節目～31小節目]

変イ長調でゆったり、美しいメロディーが波のリズムに乗って流れる。28～29小節のスフォルツァンドは意識する程度、ディミヌエンドは確かめながら、スタカートはあまり鋭くなく、前打音も指先に力を入れずに軽く奏し、ディミヌエンドエポコーラレントドにつなげる。

• A´ [32小節目～39小節4拍目]

36～37小節のクレッシェンドはバスの下降を意識し和音を正確に奏す。

• コーダ [39小節目5拍目～47小節目]

4小節の2つのフレーズはやさしく甘いメロディーと、前奏を再現したメロディーでだんだん弱く、だんだん遅くしながら音楽を閉じる。

◎「伴奏法」「音楽Ⅰ、Ⅱ」「器楽Ⅰ、Ⅱ」の授業では自分のイメージに合った演奏を発表し、「伴奏法」の授業ではメロディーと伴奏にわけ連弾としても勉強し、伴奏の指導も行った。

◎曲の分析を行った。〔4〕

## ○考察

音楽科「伴奏法」、初等教育科「音楽Ⅰ、Ⅱ」、保育科「器楽Ⅰ、Ⅱ」の共通目標のひとつは「弾き歌い」である。歌唱においてまず演奏者は、歌詞を理解し、作曲者の伝えたいことを表現しなければならない。

作品の解釈を明瞭にするためには音楽力、演奏力が必要である。5年程前から感性と技能向上のためブルグミュラー作曲「25の練習曲」を教材の一部として使用した。内容は同じだが、科、コース、により進み方は大きく違った。音楽科の「伴奏法」は半期で25曲全部勉強できたが、保育科、初等教育科は、2,3曲であった。

しかしブルグミュラー作曲「25の練習曲」を教材の一部として使用したので、鑑賞により全体を通して曲想を感じ取る能力、標題音楽から標題に合った音楽表現、音楽表現するための技能向上、音楽用語を理解する事により音楽の自然な流れを把握、曲の構成を考えることにより楽譜力を養い、曲の分析をすることにより作曲者の適切な作品解釈の向上、メロディーと伴奏をわけて演奏することで無意識な演奏でなく、音楽を立体的に把握することが出来た。これらの事は、「弾き歌い」にもつながる能力である。

学生が入学時と確かに違うことは、授業アンケートにも書かれていたが「演奏、弾き歌いをする上で演奏内容の明確化が出来た」事である。この勉強が本場での指導内容の明確化につながる事が大切である。

ブルグミュラー作曲「25の練習曲」をできるだけ授業に取り入れて学生のピアノ技術の向上に力を注ぎたいと思う。

今後は残りの曲も文章化することを課題とし研究していきたい。





# (2) Ballade

Allegro con brio (♩=104) バラード

15 *p misterioso*

7 [A] C:I I 4 I I I I

14 *sf* *sf* *p* *cresc.*

22 *f*

31 *dolce* *cresc.*

39 [B] C:I *poco riten.* *animato*





## (3) Tarentelle

タランテラ

Allegro vivo (♩ = 144~160)

20

27

34

35

1. 2.

*f* *sf* *p* *cresc.* *leggiero* *f*

*I* *I* *I* *I* *I* *V*

*I* *V* *I* *I* *V* *I* *F* *I*<sup>2</sup>

*I*<sup>2</sup> *V* *I* *I* *I* *I* *I* *I*<sup>2</sup>

*I*<sup>1</sup> *I*<sup>1</sup> *V* *I*<sup>2</sup> *V* *I*<sup>2</sup> *V* *I*<sup>2</sup> *V*

(3)

37

31

1. 2. (3)

*p* *p* *cresc.* *sf*

37

*p* *cresc.*

$\sqrt{7}$  I I [C] D: I I I  $\sqrt{9}$

$\sqrt{9}$  ( $\sqrt{7}$ ) ( $\sqrt{7}$ ) I I I I

44

*sf* *p leggiero* *f*

1. 2. (3)

$\sqrt{7}$   $\sqrt{7}$  I ( $\sqrt{7}$ ) I I

49

*f* *sf* *sf* *sf*

$\sqrt{7}$  I ( $\sqrt{7}$ ) I I

A: I I  $\sqrt{7}$  I I

55

1. 2. (3) (2 3 4) (2 3 4) (2 3 4)

*f* *sf* *sf* *sf*

$\sqrt{7}$  I [C-7] I  $\sqrt{7}$  I  $\sqrt{7}$

60

*dimin. e poco riten.* *f*

*in tempo*

I I I I I I I



## (4) Barcarolle

舟歌

Andantino quasi Allegretto (♩=72)

22 *pp* *cresc.* *sf*

序奏 As: I I I I I

5 *pp* *cresc.* *sf* *p dolce*

10 *dimin. e riten.* *p cantabile*

14 *leggiero* A I V<sub>7</sub>

19 *p* I I (V<sub>7</sub>) I I V<sub>7</sub> C: IV<sub>7</sub> II<sub>7</sub>



24 (4)

Chord symbols:  $I^2$ ,  $V_7$ ,  $(8-V_7)$ ,  $V_7$ ,  $I$ ,  $Es: V_7$

25

*sf* *sf* *dimin. e poco rall.* *p* *in tempo*

Chord symbols:  $I$ ,  $IV^2$ ,  $I$ ,  $IV^2$ ,  $I$ ,  $I$ ,  $As: I$ ,  $V_7$

33

*cresc.*

Chord symbols:  $I$ ,  $I$ ,  $(V_7)$ ,  $I$ ,  $IV^1$ ,  $IV^1$ ,  $I^2$

38

*lusingando* *p*

Chord symbols:  $I^2$ ,  $V_7$ ,  $I$ ,  $I-V_7$ ,  $I$ ,  $IV^2$ ,  $I$ ,  $(V_7)$ ,  $I$ ,  $I$ ,  $IV^2$

43

*pp* *perdendosi*

Chord symbols:  $I$ ,  $(V_7)$ ,  $I$ ,  $I$ ,  $I$ ,  $V$ ,  $V_7$ ,  $I$

### 参考文献

- 1) 初等科音楽教育法〔改訂版〕、10-11pp、音楽之友社〔2011〕
- 2) 飯田有抄・前島美保：ブルクミュラー 25の不思議、76-80pp、音楽之友社〔2014〕
- 3) 永富和子：もっと楽にピアノは弾ける、-ピアノが大好きになる練習法-  
97pp、185-186pp、264pp、〔1996〕
- 4) 音楽科・表現の指導：その技術と展開 福岡教育大学音楽科、238-241pp音  
楽之友社〔1982〕
- 5) 千蔵八郎：名曲事典 427pp、465pp、466pp、550pp、557pp、559pp、673pp、  
679pp、音楽之友社〔1976〕

### 参考楽譜

- 1) 松本倫子編：新こどものブルクミュラー、全音楽譜出版
- 2) 春畑セロリ：ブルクミュラー 25の練習曲、音楽之友社
- 3) 種田直之：25の練習作品100、ウィーン原典版、音楽之友社 36pp  
50-51pp、56-57pp、60-61pp
- 4) 北村知恵：ブルクミュラー 25の練習曲、全音楽譜出版社
- 5) 六島礼子：ブルクミュラー 25の練習曲、ショパン出版
- 6) 井内澄子：ブルクミュラー・25の練習曲、カワイ出版

